昭和58年度

（第 11 回）

籾処理精米加工コース

実　施　要　領

昭 和 58 年 8 月

国際協力事業団

研　修　事　業　部

JICA
000
84.1
TA
LIBRARY

TA
JR
83－138

国際協力事業団	
受入月日 '84. 6. 29	000
	84.1
登録No. 10472	TA

目　　次

1. コース名等…… 1
2. コースの目的・背景…… 1
3. 到 達 目 標…… 2
4. 研修項目・研修方法…… 2
5. 研修員参加資格要件…… 3
6. 研修実施体制及び運営…… 3
7. 研修・宿泊施設…… 3
8. 研修教材・資機材…… 4
9. 研修付帯プログラム…… 4
10. 研修の評価…… 5
11. そ　の　他…… 6

付表1. 昭和58年度研修日程（案）…… 7
付表2. 昭和58年度研修員リスト…… 13
付表3. 年度別受入実績表…… 15

JICA LIBRARY
1009090[0]

1. コース名等

(1) コース名

和文　昭和５８年度籾処理精米加工コース

英文　Group Training Course in Post-Harvest Rice Processing 1983−84

(2) 期間　昭和５８年　８月２５日から
昭和５８年１１月２８日まで

(3) 定員　１５名

2. コースの目的・背景

(1) コースの目的

本コースは日本における収穫後の籾処理，すなわち籾乾燥，籾摺，米の格付検査，貯蔵および精米，製油等の処理加工技術に関する知識・情報を提供することにより，参加国における当該分野の行政面の企画，立案に寄与し，上記各処理段階における量的および質的損失防止に貢献することを目的とする。

(2) コースの背景

本コースは，1973年（昭和４８年）に開設された。

開設当時，参加国の大勢は米の増産を目ざしており，生産以後の処理技術を対象とする本研修は時期尚早の感を免れなかったが，数年前からＦＡＯをはじめとして参加国の米の収穫後の損失防止への関心が高まり"Post−Harvest Technology of Rice"の用語が広まり，世界の米産国でこの分野の重要性が理解されるにいたった。このような世界的風潮を考慮し，本研修の名称を従来の"Rice Processingから1979年に"Post−Harvest Rice Processing"に改めた。（注，今日の国際的認識ではProcessingは機械装置を用いる米の技術分野を総称しており，本研修の内容としては，Rice Processingだけでも差支えない。）

本研修は上級管理技術者１５名を主対象に，対象地域をアジア，アフリカ

中南米とし，毎年3ケ月間実施し，研修科目も関連技術の変化と進歩に応じて逐次改修した。

1982年（昭和57年）をもって本研修は開設以来10年目をむかえ，この間の受入実績は延べ25か国，計140名を数えるにいたった。

3. 到達目標

(1) 我が国が籾処理精米加工に関して蓄積した知識・経験の概要を把握する。

(2) 研修員各国の実情にてらし，組織体制，活動内容，手段・方法の改善等について具体的な方策立案に関する手がかりを得る。

(3) 特に米の処理・加工施設に関しては理論・実践の両面から体得させ，自ら企画・設計・運営をなしうる能力を養う。

4. 研修項目・研修方法

(1) 研修項目

参加国の当該分野の行政面における企画，立案に寄与すべく，以下の事項につき研修を行うこととする。

ア．日本における米の生産と流通制度および農協の機能

イ．米の収穫，脱穀，乾燥，籾摺，貯蔵等，各段階の処理方法と施設

ウ．米の格付検査の方法と器材

エ．精米機とその関連装置の機能，大型精米における原料から製品にいたる一連の処理方法と施設

オ．関連分野における計測方法

カ．米の処理・加工施設の企画設計，運営上の着眼点

(2) 研修方法

研修室における講義，機械装置製作企業その他における実習，関連施設の学習，見学旅行に分けて行う。実習，研修旅行は全研修時間の約32％に当るが，研修員からの要望からみて，この割合の増大を心掛けている。（また企業における実習は年々，好評をえている。）

5. 研修員参加資格要件

(1) 応募資格要件（ＧＩ記載条件）

イ．所定の手続きにより割当国政府より推薦された者。

ロ．公的機関に所属する上級管理技術者であり，収穫後の米処理全般にわたる近代化の企画・推進にたずさわる者。

ハ．大学卒業または同等の学力を有する者。

ニ．原則として，４５才以下の者。

ホ．十分な英語能力を有する者。

ヘ．身体的・精神的に健全である者。（妊婦の参加は認められない。）

(2) 選考方法及び選考基準

参加割当国政府より提出された要請書（Ａ３フォーム）に基づき，日本精米工業会，農林水産省，国際協力事業団の協議により人選を行なう。

ＧＩ記載の資格要件を主たる選考基準とする。

(3) 割当国

（アジア地域） バングラデシュ・ビルマ・インド・インドネシア・マレイシア・ネパール・パキスタン・フィリピン・スリランカ・タイ

（中近東地域） エジプト・スーダン

（アフリカ地域） リベリア・タンザニア

（中南米地域） ボリヴィア・ブラジル・コロンビア・パラグァイ

以上，１８ケ国，各国１名

6. 研修実施体制及び運営

本件研修コースは農林水産省経済局国際協力課と国際協力事業団との協力により実施する。

研修の運営管理については，（社団法人）日本精米工業会に委託する。

7. 研修・宿泊施設

(1) 研修受入機関

農林水産省経済局

国際部国際協力課

(2) 研修運営委託先機関

（社団法人）日本精米工業会

(3) 研修施設

農林水産省，海外中央研修室

（佐竹製作所生産本部〈広島〉）

(4) 宿泊施設

アジア文化会館

〒113　東京都文京区本駒込２－１２－１３

TEL　(03) 946－4121

8. 研修教材・資機材

(1) 教　材

イ．テキスト

各講師が担当する講義についての原稿を作成する。研修員に対しては，右原稿をコピーし，集大成したものを前広に手交し，テキストとして使用する。

（タイトルについては別添日程表参照）

ロ．１６㎜映画

「白い米」（英語版）約３０分程度，その他必要に応じスライドを使用する予定。

(2) １６㎜映写設備

スライドプロジェクター等

9. 研修付帯プログラム

(1) 関連プログラム

イ．集合ブリーフィング

来日の翌日，東京インターナショナルセンター（ＴＩＣ）において，来日諸手続き及び滞在費支給に係る説明を行なう。

ロ．ジェネラル・オリエンテーション

来日の翌１週間、東京インターナショナルセンター（ＴＩＣ）において，下記プログラムにより日本の経済，行政，文化等の紹介を行なう。

ジェネラルオリエンテーションプログラム

日	時　　間	内　　容
第１日（月）	１０：００～１２：００ １３：３０～１４：１５ １４：１５～１６：１５	所長挨拶　ＪＩＣＡ事業説明 ＴＩＣ業務等説明 よりよい滞日生活のために
第２日（火）	１０：００～１２：００ １３：３０～１４：３０ １４：３０～１６：３０	日本の文化史 日本の経済協力 日本の人文地理
第３日（水）	１０：００～１２：００ １４：００～１６：００ １６：１５～１７：１５	日本の経済 日本の行政機構 日本紹介Ｆｉｌｍ上映
第４日（木）	１０：００～１２：００ １４：００～１６：００	日本の言葉 日本の教育
第５日（金）	９：００～１３：００	都内見学（バス）

10. 研修の評価

研修終了時において評価会を開催し，講義内容，研修プログラム，研修の成果についての意見交換を行なう。また，GENERAL　EVALUATION

SHEET及びFINAL REPORTを研修員より提出せしめ，上記評価会における感想，意見，提案等とあわせて，研修員の本件研修コースに対する理解度を総合的に評価することとしている。

なお、研修終了後，しかるべき時期に農林水産省，日本精米工業会及び国際協力事業団の各研修関係者により反省会を持ち，今後の本件研修コースの実施・運営面の改善に資することとする。

11. その他（研修監理員の配置）

国際協力事業団は，研修業務の円滑な遂行のため通訳業務及び業務調整を兼ねた研修監理員を配置する。

付表1. 昭和58年度研修日程（案）

月日	曜	午前			午後			研修場所	備考
		研修項目等	講師	所属	研修項目等	講師	所属		
8.25	木	来日							
26	金	来日手続							
27	土	Free							
28	日	〃							
29	月	ジェネラルオリエンテーション（TIC）							
30	火								
31	水								
9.1	木								
2	金								
3	土	Free							
4	日	〃							
5	月	開講式		国協課 精米工	日本農業の概要と農林行政機構		国協課	海外研修室	
6	火	日本の食糧事情および米の生産と消費	谷 達雄	精米工	日本の米の流通の概要	谷 達雄	精米工	〃	
7	水	日本の稲の栽培の概要		農産課	農協の事業活動の概要		農協課	〃	
8	木	農業機械の生産と輸出	渋木速雄	日農工	日本の精米加工の概要	谷 達雄	精米工	〃	
9	金	食糧（米穀）管理制度					食糧庁	〃	
10	土	Free							

月日	曜	午前			午後			研修場所	備考
		研修項目等	講師	所属	研修項目等	講師	所属		
9.11	㊐	Free							
12	月	政府倉庫，米穀加工センター，都市精米工場，米穀販売店の見学						東京都	
13	火	カントリーリポート報告 (1)				谷コースリーダー他	国協課精米工	海外研修室	
14	水	〃 (2)				〃	〃	〃	
15	㊍	（祝日）							
16	金	カントリーリポート報告 (3)				谷コースリーダー他	国協課精米工	海外研修室	
17	土	Free							
18	㊐	〃							
19	月	農協事業の実際とライスセンター等施設の見学						群馬県	
20	火	稲収穫・脱穀の機械化				市川友彦	農機研	海外研修室	
21	水	籾乾燥の理論および乾燥機の構造と性能				伴 敏三	〃	農機研	
22	木	籾摺機の構造と性能および籾がらのガス化施設				鷹尾宏之進	〃	海外研修室	
23	金	（祝日）							
24	土	Free							
25	㊐	〃							
26	月	稲生産機械				金子久夫	農機協	海外研修室	
27	火	日本型・インド型稲の特質				江幡守衛	名古屋大	〃	
28	水	日本型米の理化学的特性と玄米貯蔵				竹生新治郎	穀検	〃	

9.29	木	米の精米適性と食用適性				谷　達雄	精米工	海外研修室	
30	金	玄米貯蔵施設と貯蔵技術				青木　彬	買入課	〃	
10. 1	土	Free							
2	㊐	移動　（東京　→大阪）							宿泊　大阪
3	月	大阪地区大型精米工場の見学						大　阪　府	〃
4	火	カントリーエレベーターの見学						滋　賀　県	〃
5	水	農協の各種施設と施設経営						〃	〃
6	木	移動　（大阪　→広島）							宿泊　広島
7	金	籾処理・精米加工関係装置製作の概要				高野　明	精米工	広　島　県	（以下広島）
8	土	Free							
9	㊐	〃							
10	㊊	（祝　日）							
11	火	籾処理・精米加工のプロセスと機能				高野　明	精米工	広　島　県	
12	水	籾乾燥機の取扱方法	高野　明	精米工	小型乾燥機の運転操作	土井英雄	〃	〃	
13	木	テンパリング籾乾燥機の分解と組立				高野　明		〃	
14	金	籾摺機の取扱方法	高野　明	精米工	籾選別機の構造	〃		〃	
15	土	Free							
16	㊐	〃							
17	月	籾摺機の分解と組立	金口逸男	精米工	籾摺機の運転操作	今井　猛	精米工	広　島　県	
18	火	各種精選機の構造と性能				高野　明	〃	〃	

月日	曜	午前			午後			研修場所	備考
		研修項目等	講師	所属	研修項目等	講師	所属		
10.19	水	精米の理論	田代隆之	精米工	最近の日本の精米装置	保坂幸男	精米工	広島県	
20	木	摩擦式，研削式精米機の構造と性能				田代隆之	〃	〃	
21	金	摩擦式，研削式精米機の分解と組立				岡田 寛	〃	〃	
22	土	酒造工場の見学						〃	
23	㊐	Free							
24	月	小型精米機の構造と性能	岡田 寛	精米工	小型精米機の運転操作	岡田 寛	精米工	広島県	
25	火	パーボイリングの装置と性能				高野 明	〃	〃	
26	水	計量包装機の構造と性能	高野 明	精米工	籾殻のエネルギー資源として利用	〃	〃	〃	
27	木	籾摺・精米プラントの設計				〃	〃	〃	
28	金	カントリーエレベーターの見学			精米工場の見学			〃	
29	土	移動 （広島 →東京）							宿泊 東京
30	㊐	Free							
31	月	計量機の構造と工場用計量機				吉富素彦	穀検	海外研修室	
11.1	火	米の格付と検査				竹内実康	検査課	〃	
2	水	熱帯地域における米貯蔵の特色	谷 達雄	精米工	米のばら貯蔵	谷 達雄	精米工	〃	
3	㊍	（祝 日）							
4	金	米の二次的ロス				谷 達雄	精米工		
5	土	玄米ばら荷受施設の見学						神奈川県	

11. 6	㊐	Free						
7	月	移動（東京→筑波）	食品総合研究所，熱帯農業研究センターおよび筑波国際農業センター見学					宿泊筑波インターナショナルセンター
8	火	籾の貯蔵と品質			柳瀬　肇	食総研	筑波インターナショナルセンター	
9	水	米の貯蔵害虫とその防除方法			三井英三	〃	〃	
10	木	米の貯蔵微生物とその防除方法			鶴田　理	〃	〃	
11	金	パーボイリングの理論と方法		移動（筑波→東京）	荒井克祐	熱　研		宿泊　東京
12	土	Free						
13	㊐	〃						
14	月	米油工場の見学					千　葉　県	
15	火	米油の製造技術			横地慶三	米油技研	海外研修室	
16	水	米の副産物利用	谷　達雄	精米工	収穫後処理技術の共通問題	谷　達雄	精米工	〃
17	木	日本の収穫後の米処理機械化の特質と東南アジア諸国への適応性			古賀康正	前ESCAPエキスパート	〃	
18	金	精米工場の経営管理			谷　達雄 岡田五郎吉	精米工	〃	
19	土	Free						
20	㊐	〃						
21	月	全般的討議 (1)			谷コースリーダー他	国協課 精米工	海外研修室	
22	火	〃 (2)			〃	〃	〃	
23	㊌	（祝　日）						
24	木	報告書作成						
25	金	研修の評価と検討会	国協課 谷　達雄	閉講式		国協課 精米工	海外研修室	

月日	曜	午前			午後			研修場所	備考
		研修項目等	講師	所属	研修項目等	講師	所属		
11.26	土	帰国準備							
27	㊐	〃							
28	月	帰国							

付表 2. List of Participants

Group Training Course in Post-Harvest Rice Processing 1983-1984

Duration 1983, 8, 25 – 1983, 11, 28.

No.	Country	Name of Participant (Mr. Mrs. Miss Dr.)	(Age)	Present Post of Participant
1	Burma	Mr. TIN MAUNG OO	32	Divisional Engineer, Mandalay Division, Agriculture Farm and Produce Trade Corporation.
2	Colombia	Mr. ABRAHAM IZQUIERDO SANCHEZ	36	Seed production plant, rice crops technical assistant Rice Colombian Federation.
3	Egypt	Mr. MOHAMED IBRAHIM EL SAID	33	Chief production, Rice Technology Training Centre, Alexandria of Rice Marketing Company.
4	"	Mr. HASSAN SAYED HASSAN IBRAHIM	34	The Head Department of Rice Milling and Handling, Ministry of Supply.
5	India	Mr. MUHAR SINGH NISHAD	36	Deputy Director, (Storage and Research), Department of Food, State Government of Uttar Pradesh, Lucknow.
6	Indonesia	Mr. SOEPAKAT	42	Manager of Rice at Dawuan Cikampek West Java, PT. PERTANI.
7	"	Mr. NYOMAN OKA TRIDJAJA	31	Head, Rice mill Section, Directorat of Food Crops Economics.
8	Nepal	Mr. SINGH LALL DEAB PRADHAN	38	Assistant Food Research Officer, Ministry of Agriculture, Central Food Reseach Laboratory.
9	Pakistan	Mr. LIQUAT ALI HASHMI	33	Technical Officer, Pakistan Agricultural Reseach Council.
10	Philippines	Mr. GENEROSO M. OLI	24	Agricultural Engineering Reseach Assistant II, CIADP.
11	"	Mr. BENJAMIN B. MARTA	34	Provincial manager, NFA, Region VI San Jose.
12	Sri Lanka	Mr. THILAKARATNA BANDA ADHIKARINAYAKA	32	Mechanical Engineer, Rice Processing Reseach and Development Centre, ANURADHAPURA.
13	Sudan	Mr. MOHMED AHMED MOHMOUD	26	Agricultural Engineer, Chief of Processing Section.
14	Tanzania	Mr. SHABANI RAMADHANI CHAYOA	34	Agricultural Machinery Engineer, Kilimanjaro Agricultural Development Centre.
15	"	Mr. ISSA ALI ISSA	35	Agricultural Officer, Department of Agriculture and Extension, Ministry of Agriculture.
16	Thailand	Mr. VICHAI JIRATHIYUT	30	Provincial Silo Manager, Marketing Organization for Farmers.
17	Burma	Mr. MYINT THAN	35	Township co-operative officer, Township co-operative Department.

付表 3.　籾処理精米加工コース　年度別受入実績表

昭和	国名	計	国別割当数	アジア地域	バングラデシュ	ブルネイ	ブータン	ビルマ	インド	インドネシア	大韓民国	ラオス	マレイシア	モルディヴ	モンゴル	ネパール	パキスタン	フィリピン	シンガポール	スリランカ	タイ	香港	中国	オセアニア地域	フィジー	ナウル	パプア・ニューギニア	トンガ	西サモア	ソロモン	ツバル	ミクロネシア	バヌアツ	キリバス	その他	中近東地域	アルジェリア	バハレーン	エジプト	イラン	イラク	ジョルダン	クウェイト	レバノン	リビア	モロッコ	オマーン	カタル	サウディアラビア	スーダン	シリア	トルコ	アラブ首長国連邦	テュニジア	北イエメン	南イエメン	アフリカ地域	カメルーン	中央アフリカ	ベナン
48	1973	10		10				2	1	2			1					2			1						（ヴィエトナム）								1	0																								0			
49	1974	11		9				1		3		1				1		2			1															2			2																					0			
50	1975	12		9				1		2		1				1		2		1	1															1			1																					0			
51	1976	14		12	1			2		2			1			1	2	1		1	1															1				1																					1			
52	1977	16		8	1			1		2			1			1		1		1																3			2	1																					2			
53	1978	12		8	1			1		2			1			1		1		1																2			1	1																					1			
54	1979	17		13	1			1		2			2			1	1	2		1	1							（アフガニスタン）							1	0																								1			
55	1980	16		9	1			1		2						1		1		1	2															2			1										1									2			
56	1981	20		12				4		2			1			1		1		1	2															2			1										1									2			
57	1982	12		6				2		1			1					1			1															2			1										1									2			
58	1983																																																														

国名	国別割当数	計	アジア地域	バングラデシュ	ブルネイ	ブータン	ビルマ	インド	インドネシア	大韓民国	ラオス	マレイシア	モルディヴ	モンゴル	ネパール	パキスタン	フィリピン	シンガポール	スリランカ	タイ	香港	中国	オセアニア地域	フィジー	ナウル	パプア・ニューギニア	トンガ	西サモア	ソロモン	ツバル	ミクロネシア	バヌアツ	キリバス	その他	中近東地域	アルジェリア	バハレーン	エジプト	イラン	イラク	ジョルダン	クウェイト	レバノン	リビア	モロッコ	オマーン	カタル	サウディアラビア	スーダン	シリア	トルコ	アラブ首長国連邦	テュニジア	北イエメン	南イエメン	アフリカ地域	カメルーン	中央アフリカ	ベナン

	エ	ガ	ガ	ギ	象	ケ	リ	マ	マ	マ	モ	モ	ナ	セ	シ	ソ	タ	ト	ウ	上	ザ	ザ	ガ	コ	ス	チ	ル	ニ	ブ	ジ	モ	コ	を	中	ア	ボ	ブ	チ	コ	キ	ド	エ	ル	グ	ガ	ハ	ホ	ジ	メ	ニ	パ	パ	パ	ペ	トリニダッド・トバゴ	ウ	ヴ	バ	グ	ス	バ	セ	そ	そ	ユーゴスラヴィア	サ
	テ																																																																						
	イ				牙																																																														
	オ				海																																																													
	ピ					ニ																																																												
	ア	ア	ア	岸	ア	ア	ア	ル	イ	リ	ス	ア	ア	ル	ネ	ア	ア	ゴ	ダ	ダ	ル	ア	ア	ゴ	ド	ド	ダ	ル	イ	エ	ク	ロ	他	域	ン	ア	ル	リ	ア	カ	バ	ル	ル	ラ	ナ	イ	ス	カ	コ	ア	マ	イ	ー	コ	イ	ラ	ス	ダ	ム	マ	ア	他	地	ア	ス
昭和																																																																				
48																																		0																																0		
49																																		0																																0		
50																																		2																																0		
51			1																															0					1																										0		
52			1																															0																																0		
53																																		3					1																										0		
54																																		1					1																										0		
55																																		3																																0		
56			1																															4					1																										0		
57			1																															2					1																										0		
58																																																																				

JICA